

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている	住関連専門店 (店員)	販売量の動き	・これまで後回しにされてきた耐久消費財の需要について、販売数量や金額でも確実に動きが戻っている。例年は売上が伸び悩む8月も、この回復を受け上向きに推移した。
(北陸)	やや良く なっている	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・食品関連については前年を超えるような好調さが出てきた。ファッションにおいても、デイリーカジュアル性の高いものが前年を超える状況になってきた。全体的にはほぼ前年並み、もしくは少し前年よりも良いという回復傾向が見受けられる。ただし、呉服、美術品、貴金属といったぜいたく品や、インポートブランド、ラグジュアリーといったものについては、下げ幅が10%前後と縮まったが、まだ厳しい状態である。
		スーパー(店長)	単価の動き	・最近の客の買物動向をみていると、お中元商品などで、以前に比べると高額商品が少しずつではあるが動いている。逆に安価な商品が若干敬遠気味で、売行きが落ちている傾向にある。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・消費税増税後、一部商品の値上がりがあったものの、影響は感じられなくなった。ギフトや墓花などの8月のお盆商材、飲料やそうめん等の夏季商材も好調な動きで、単価も昨年を下回っていない。
		コンビニ(店長)	それ以外	・3か月前は前年比で売上、来客数などが悪化していたが、8月は盆明けから思ったほど客足も下がらず、前年割れはしているものの3か月前ほどひどい状況ではなくなった。ほぼ前年並みか数%割れまで回復してきた感じである。
		コンビニ(店舗管理)	販売量の動き	・春からの消費税増税のショックもようやく和らいできたように感じる。スーパーマーケットやドラッグストアとの価格差がある商材の売上は低調だが、米飯、総菜、菓子パンといった商材は前年並みに戻ってきた。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・夏休み期間、ファミリー客を中心に例年並みの集客ができた。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・8月前半は来客数、売上ともに前年を10%下回っていたが、週を追うごとに回復し、後半には前年の水準にまで回復してきた。	
	変わらない	商店街(代表者)	来客数の動き	・長雨などの天候不順で、来客数が少ない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・8月上旬は7月の落ち込みをばん回できそうな雰囲気もあったが、台風や豪雨で客足が激減した。1か月でみれば、前年と変わらない程度の売上に落ち着きそうだ。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・夏らしい日もあるが雨の降る日も多く、天候が不順であるため、夏物商材の売行きがあまり良くない。消費者の夏物商材の購買意欲が全体的にパツとしない。
		一般小売店[鮮魚](従業員)	販売量の動き	・すべてではないが、取引先で前年の売上を大きく上回る先が数多くなっている。8月は特に台風や大雨がひどく、魚の水揚げが少なかったのうれしい誤算となっている。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・消費税増税後の回復は徐々に現れてきており、高額商品にも動きが出てきた。しかし、ガソリン価格の高騰など、消費を刺激する材料に乏しく、衝動買いを含め、不必要なものは購入しない傾向が以前より強くなっている。
スーパー(統括)		お客様の様子	・3か月前の消費税増税の影響が少し落ち着いた状況と比較すると、客の様子には変化はない。そうしたなかで、実質的に客の買い方には変わりはないが、天候不順による青果物などの相場の関係が売上の好要因となっている。	
スーパー(店舗管理)	単価の動き	・消費税増税の影響から回復した5月以降は、来客数、客単価の動きは一定である。		
コンビニ(経営者)	販売量の動き	・売上が前年同月比で90%という状況が、このところずっと続いている。客単価が前年より若干上昇しているが、来客数の減少をカバーするには至っていない。		
衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・特に衣料品に関する売上が悪く感じられ、好転の兆しがみられない。		
衣料品専門店(総括)	お客様の様子	・バーゲンでも、ただ単に値段が安いだけでは通用しない。		

自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数は前年比で10%減少しており、さらに買上比率も下がっている。特に必要としない商品にはキャンペーン等の有利な価格訴求でも反応が悪く、必需品以外の購入を控える傾向が続いている。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・昔からニッパチといって2月、8月は暇だと言われているが、まさにそのとおりで、暇である。とにかく客単価が小さく、売上も減っている。ただし、3か月前と比べると状況は変わらない。消費税増税後、売上がダウンしたまま横ばいで推移しているという感じである。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・日用品、食料品などに関しては、消費税増税や天候の影響も感じられず、例年通りの販売量となっている。ただし、衣料品や服飾、宝飾品関連の販売量が例年と比べ5～10%程度落ち込んでいる。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は順調に集客していたが、下旬に料亭部門が2か月間の改装工事に入ったため予約を姉妹店に振り分け、トータルの売上は例年並みに落ち着いた。	
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・盆も含め、毎週末の天気が悪く、来客数に影響があった。ただし、例年は盆以降は客足が鈍るが、今年は健闘した。	
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・8月の売上は、宿泊は7%増であったが、宴会はやや前年を割り込んだ。北陸新幹線開通前である今年は、大型の大会や学会が前年の70%しかなく、しばらく今の状況が続くとみている。レストランも前年実績には届かず、消費者の外食への動きは弱い。	
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・天候不順、消費税増税、ガソリン高などにより客は遠出を控えている。例年の夏休み特需も期待外れに終わっている。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当社を取り巻く環境は消費税増税に加え、貸切バス新運賃制度の導入もあり、同じ商品でも2割以上高騰しており、顧客の買い渋りが目立ち始めている。また当社の利益も減少している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は全体として天候が不順で、台風や大雨の日が多くあり、夜の街は人出が少なかった。	
通信会社（役員）	販売量の動き	・通信サービスにおいて、過去、解約件数が新規契約件数を上回る月が数か月続いたが、今月に入りようやく獲得件数が上回る状況になりつつある。	
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・料金プラン変更需要に伴い来客数は増えたが、販売比率でみると15%ほど下がっている。新商品購入に向けての買い控えに入っている。	
通信会社（役員）	販売量の動き	・客からの問い合わせや契約数は変わらず推移している。	
その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・新規入会は少なかったが、退会を抑えることができた。しかし会員総数は前年同期を下回っているため、苦しい。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注額は一昨年と比較して単月で一けた台のマイナスにまで回復したが、単価や来場者数の回復は想定していたほどではなく、一過性のものか判断できない。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントには一定の来場はあるが、住宅購入目的の来場者が減っている。また、客は一段と慎重になっており、契約までの期間が長くなっている。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・展示会等の来客数は多いが、客は慎重で急いでおらず、契約までに時間がかかる。また同業他社との競合も激しさを増している。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の問い合わせが、以前と比べ増えているが、成約にまで至っていない。	
やや悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・来客数が少なくなっている。8月後半が例年になく気象が悪かったことが関係していると思われる。特にイベントでの来客数が伸び悩んだ。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・客の財布のひもが非常に固い。消費税増税の影響が7～8月に出ている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・クリアランスセールを実施しているが、前年に比べて天候不順であるため、来客数が前年を割っている。セールの中たるみもあり不調だったが、お盆過ぎあたりから少しずつまとめ買いが増え、7分袖など秋を意識した商材の動きが良くなった。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・4月の消費税増税以降、来客数が前年を下回り、8月になっても回復していない。給料が増えても消費に結びついていない。

衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・盆を過ぎてから、通行客、来店客が今までになく減っている。消費税増税や物価高で支出を伴う行動を控えている感がある。	
衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・7月の景気ウォッチャーの調査結果について、私たちの周りの人あるいは私の店舗環境とは、かなり違って、相当にショックを受けている。消費税増税の影響については回復しているかもしれないが、景気としては円安、ガソリン高、天候不良、収入が増えないなど悪くなっていると判断している。当地だけであろうか。	
家電量販店(店長)	販売量の動き	・8月は冷夏と言っていいほどであり、夏物商材の売行きが悪い。	
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・受注量が大変悪く、前年同月比75%に落ち込んでいる。同業他社でも同じように受注が悪いようだ。買い控えが目立っている。	
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・中古車フェアのイベントに参加したが、予想したほどの売上に結びつかず、来客数も少ない。	
乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・消費税増税直後は予想通り落ち込みが厳しかったが、6~7月は前年と変わらないレベルまで販売が回復した。しかし、この8月は季節的要因もあると思うが、受注、販売ともかなり減少がみつくなっている。	
乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・8月の販売量は、前年同月比で70%である。今年5月の販売量は、前年同月比117%であったことから、3か月前との比較では下向きである。5月は消費税増税前の受注残があったことを考慮しても、消費需要の回復は鈍いと考えられる。	
その他小売 [ショッピングセンター]	来客数の動き	・消費税増税後、買上げ単価はとんとんだが、既存店実績では買上げ客数が前年を5%程度割る状況が続いている。増税後の影響からは食料品を中心に戻ってきているが、衣料、住まいの品などは春から厳しいままである。	
一般レストラン (統括)	それ以外	・内部では原材料の高騰による原価高、外食に集まる労働人口の減少による人手不足が要因の営業時間、日数削減により、今までの営業利益確保が難しくなってきた。売値引上げによる打開しか方策がない反面、売値引上げによる来客数減により現状以上の営業利益減が懸念される。	
観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・前年同月比で総売上は102%、宿泊人数は100%、宿泊単価は100%であった。個人旅行は好調であった前期には及ばなかったが、宿泊単価の見直しにより売上は確保している。地域別では関西方面からの集客が好調である。	
タクシー運転手	販売量の動き	・利用回数が少ない。また、夜の繁華街の客足も同じく少ない。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ガソリン価格の値上がりによる交通コストの上昇や、バスの料金規制によるバス代の値上げがあったことにより、個人客、団体客とも前年同月比で5~6%の減少となっている。あわせて今日は、前年と比較して、週末ごとに天候不順だったこともあり、その影響が大きく出る結果となった。	
悪く なっている	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数は前年比88%程度である。客単価は消費税の影響もあり若干上回って100%を少し超えている。たばこの売上が、値上げ以降大幅にダウンしている状況が継続しており、いまだに全く回復してきていない。中国産鶏肉の偽装問題などの影響もあり、ファストフード類の売上も以前に比べて下がっている状況が続いている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・前年は8月が悪かったもので、それよりは若干良かったものの、盆後は特に流れが悪く、最悪であった。客の職種によって格差がある感じがする。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている やや良くなっている	-	-
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量については安定しつつあり、前年同期を上回っている。しかし、コストアップが先行しており、収益の面では課題を残している。
	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧州市場はロシアへの輸出制限もあり若干停滞しているが、米市場は好調である。また国内市場も工業用3Dプリンターの複合加工機の受注が伸びてきている。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・第2四半期に入り7～8月は官公庁工事の発注が増え始め、当社では大型物件も受注できるようになった。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・業界全体の施工能力が限界にあり、受注競争は緩和傾向で、受注量が他年度に比べ増加傾向で推移している。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・飲食店や小売などの出店希望もみられ、総じて前向きな経営判断を行う企業が増えている。	
変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内、国外、各用途ともに、今のところ受注状況が安定している。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況は横ばいである。	
	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・百貨店を含む一部の大手小売店では販売が戻ってきているとの報告を営業から受けており、今月頃から更に一般店にも広がるかと期待をしていたが、天候の影響などもあるかもしれないが、特に中小店ではまだその気配はない。	
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油価格が高止まりしていても運賃に転嫁できない。値上げ交渉も難航し、厳しい状況は継続している。	
	司法書士	取引先の様子	・街の中心街でも郊外でも、新しい土地利用や事業の動きはあるが、一方で開業40年以上の店が事業の先行きが見えないということで廃業するケースも多い。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・今月の販売状況については、徐々にではあるが3～5%程度の数量減が見えてきている。また、付加価値の高いものより、100円均一と言われる安価なものに流れている傾向が見える。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で6月までは好調を保っていたが、7月以降減少し陰りが出てきた。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・現状の消費者は買い控えをしており、特に車や住宅などの高額商品については消費税増税が価格に影響しているため、物の動きが悪くなっている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・消費税増税の反動から徐々に抜け出してきたが、7月以降夏らしい気候とならず、8月に入ってからには特に天候不順で、全国的に災害が発生するなどあったか、売上が伸び悩み前年同期比でのマイナス幅が拡大してきている。	
	税理士（所長）	取引先の様子	・販売関係、特に個人消費関係に連なる人たちの苦戦が続いている。消費税率が上げられたことと給料が上がらなかったことによる、実質賃金のマイナスが消費者に心情として完全にしみこんでいる状態である。やはり、給料が上がらなかったのが、今大きくマイナスにきているのではないが。	
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業他社によると、今は客の動きが少し止まっているという声が多く聞かれた。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月連続で売上が前年を割ることは確実である。	
雇用関連 (北陸)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・8月の求人広告売上は、前年同月比95%ほどであった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業で新規求人数が増加している。サービス関係からの求人数は堅調に推移している。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・経験者で即戦力になる人材の需要が多い。求職者とのマッチング率が低い。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・企業からの派遣、紹介予定派遣などの求人依頼は多く見込まれているが、人材不足でマッチングが厳しい状況が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数が件数、金額ともに3か月前から横ばいである。前年比もほぼ同じで、伸びはストップしている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月と比較して減少しているが、前月とほぼ同数であるため、状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は横ばい状況にあり、製造業においては業種間にバラツキが見られ、一部業種を除き勢いがなくなってきた。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材派遣、人材紹介ともに求人数に大きな変化はなく、増加の兆しが無い。求職登録者も年度初めと比べると低調になっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・状況には特に変化はみられない。	

やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 8 月前半の求人数の落ち込みが大きく、3 か月前の月平均と比べると 1 回の発行あたり 50 件ほど落ち込んだ。
悪くなっている	-	-	-